

第2回奈良ESD連続セミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

1. 開催日時 2019年5月16日(木) 19時～21時30分
2. 会場 次世代教員養成センター2号館 多目的ホール
3. 参加者

三木(都跡小)、樋口(平城西小)、新宮(平城小)、中澤哲・小谷(平群北小)、吉田(附属中)、村岡(西大和学園高)、河野(附属小)、圓山・阿彌・大西(飛鳥小)、高良(筒井小)、島(郡山西小)、藤田(滋賀県社会福祉会)、樫原(日本ESD学会)、中澤敦(きんき環境館)
 中西・坂元・藤原・中西・畑下・東尾・仲村・櫛・田中(奈良教育大学生)
 森口・北村・中澤静(奈良教育大) 計 28名

4. 学生と現職教員のマッチング

坂元-石田、藤原-阿彌、中西-三木、
 畑下-圓山、東尾-島、仲村-大西、
 櫛-蔵前、田中-吉田・中村、山之内-新宮、
 西浦-村岡、奥平-中澤哲・小平

マッチング希望の学生			
坂元 国	3年生	石田	
藤原 音	3年生	あや	
中西 英	M1	三木	
山之内 社	4年生	新宮	
西浦 社	3年生	村岡	
奥平 国	3年生	中澤 小谷	

10連休中のESD			
畑下 家	3年生	圓山	
東尾 家	3年生	島	
仲村 社	3年生	大西	
櫛 英	3年生	蔵前	
田中 社	3年生	吉田・中村	

5. 論文講読

「持続可能な開発のための教育」とは何か 田中治彦

(1) 地球環境を破壊する2大要因

先進国側：過剰な資源・エネルギーの消費

途上国側：急激な人口増加と貧困

(2) 地球社会の問題と2大要因のかかわりを説明する



先進国側：過剰な資源・エネルギーの消費

→ 資源の枯渇・二酸化炭素の大量発生→

温暖化→環境破壊→食料生産への影響

→ 食料価格の上昇→飢餓・途上国の貧困

途上国側：急激な人口増加と貧困

→ 無理な耕地化・森林破壊・短期間の焼き畑→環境悪化→貧困・飢餓

○いずれにしても、被害が大きいのは強靭さが乏しい途上国の貧困層→SDGsのキーワード

「誰一人取り残さない」

(3) 人口増加にブレーキをかけるために必要なこと

ある程度の経済開発によって貧困を解消する必要がある。

ある程度とは、地球の生態系が許容する範囲内

(4) ESDの内容を構成する3つの柱

環境教育+開発教育+平和・人権教育

(5) 環境教育の変遷

- ①公害教育：激甚型公害の終始と共に下火に
- ②自然保護教育：日常生活との乖離・教訓的
- ③自然体験学習：野外活動・それ自体が自己目的化

④ESD

- ・批判的環境教育：批判的思考と問題解決技能の育成が重要
環境をホリスティックに捉える
環境を時間軸で捉える
知識と感受性による環境倫理の育成
- ・「つなぐ」がキーワード（阿部治）

(6) 開発教育の課題

遠い世界のこと」「関係ないこと」と捉えられ、当事者意識が育たない

ワークショップやゲーム取り入れた学習が自己目的化してしまった

持続可能な開発のための教育の最終的な目標

「共生と公正を基本とした持続可能な地球社会づくり」

開発教育がめざす「共に生きることができる公正な地球社会づくり」は、まず足元から始める必要がある。・開発教育の地域展開が必要（山西）

→ 環境教育と開発教育の目指す方向性がESDで一致する

(7) 持続可能な社会づくりのキーワード

「つながり」「参加・参画」「意思決定」

(8) まとめ

- ①持続可能な開発のための教育：環境教育+開発教育+人権・平和教育
- ②持続可能な開発のための教育は「共生と公正を基本とした循環型の社会づくり」を目的とした教育
学習活動
- ③持続可能な開発のための教育の目標は、「公正」「共生」「循環性」を実現する社会づくりに「参加」
することができるような能力や態度を養うことである



次回は6月13日（木）19時です。

